

## 埼玉県中学校教育課程指導実践事例（道徳）

### ○はじめに

「埼玉県中学校教育課程指導実践事例（道徳）」は、平成29年3月に告示された「中学校学習指導要領」における「特別の教科 道徳」（以下、「道徳科」という。）が、平成31（令和元）年度から全面実施となったことを踏まえ、授業の一層の充実に資するために作成した。

道徳科が目指すものは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要として、その目標である「よりよく生きるための基盤となる道徳性」を養うために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることにある。そのためには、各教科等における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない道徳的価値に関わる指導を補うこと、生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること、相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意することが大切である。

指導に当たっては、教材の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な授業であったり、発達の段階を十分踏まえず、分かりきったことを発言させたり記述させたりする授業から脱却することが求められる。直面する様々な状況の中で、そこにある事象を深く見つめ、自分はどうあるべきかを判断し、道徳的諸価値に基づいて実践できる力を育んでいくことが大切である。そのため、従来の道徳の時間のよさを継承しつつ、道徳的な課題を自分自身の問題として捉え向き合う「考え、議論する道徳」へと質的転換を図る必要がある。

これらを踏まえ、以下、8つの実践事例を掲載した。これらを参考にし、教員の授業力の向上と、学校の道徳教育の一層の充実に努めていただきたい。

### 第1 本指導実践事例について

#### 1 作成の基本的な考え方

- (1) 中学校学習指導要領及び埼玉県中学校教育課程編成要領の趣旨を踏まえ、同指導・評価資料との関連を図り、道徳科の充実に資する具体的な実践例を示した。
- (2) 道徳の教科化に重点を置き、道徳科の授業実践に焦点化して事例を作成した。
- (3) 本事例で扱っている教材は、道徳の教科化の趣旨を踏まえ、教科書採択制度に基づき採択された教科書、埼玉県教育委員会作成「彩の国の道徳」及び文部科学省作成「私たちの道徳」の中から選択した。
- (4) 「考え、議論する道徳」への質的転換を目指し、指導の参考となるよう、学習指導案と共に実践時の学習活動や評価の場面等における実際の様子を  内に示した。

#### 2 取り上げた内容

- (1) 取り上げる内容項目については、「A 主として自分自身に関すること」から2項目、「B 主として人との関わりに関すること」から1項目、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」から3項目、「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」から2項目とした。選定に際しては、「自分との関わり」や「多面的・多角的に」という道徳科で求められる学習イメージをもちにくい内容項目や、いじめの問題、生命の尊さなど今日的な教育課題に関わる内容項目を対象にした。
- (2) 各内容項目に係る事例について、「考え、議論する道徳」への質的転換を目指し、「自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」を進めるための指導方法及び指導の効果を高める工夫等を、各事例の内と「4 学習指導過程」の中の各場面に明示した。

## 「A 主として自分自身に関すること」に係る実践事例

### 【事例1】 第2学年 内容項目：A 希望と勇気、克己と強い意志

- ・問題意識を高める導入
- ・教材の登場人物に自我関与させる発問
- ・ねらいとする道徳的価値を実現しようとする動機を掘り下げる話し合い
- ・道徳的価値の意義について考えを深める話し合い
- ・自分を見つめる書く活動

- 1 主題名 目標達成のために
- 2 ねらい 主人公の心情を、多面的・多角的に考えさせる活動を通して、困難や失敗を乗り越える際の力は、これまでの自分の努力や周囲の人の支えであることに気付き、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にし遂げようとする態度を育てる。  
教材名 「心の涼風」(出典：「彩の国の道徳(中学校)『自分をみつめて』」 県教委)

### 【事例2】 第2学年 内容項目：A 真理の探究

- ・問題意識をもたせる導入
- ・主人公の気持ちの変化に気付かせる発問
- ・戦争の真実を追い求めることを多面的・多角的に考えさせる問い返し
- ・ねらいとする道徳的価値の意義について考えを深める問い返し
- ・自分を見つめ振り返って書く活動

- 1 主題名 真実を追い求めて
- 2 ねらい 主人公の生き方から真実を求める意義について話し合う活動を通して、真実を求め続けることが、社会の幸福、自らの人生の豊かさにつながることに気付き、真実を大切に、新たな見方や考え方を取り入れて人生を豊かにしようとする態度を育てる。  
教材名 「戦争を取材する」(出典：「中学道徳 あすを生きる2」 日本文教出版 )

## 「B 主として人との関わりに関すること」に係る実践事例

### 【事例3】 第1学年 内容項目：B 相互理解、寛容

- ・アンケートを用いた問題意識を高める導入
- ・意見交換をしやすい座席の配置
- ・自分の考えを整理して書く活動
- ・ねらいとする道徳的価値についての考えを明確にさせる問い返し
- ・自分を見つめる書く活動

- 1 主題名 立場の違いを受け入れる
- 2 ねらい 立場の違う考え方について話し合うことを通して、寛容な心で理解し合うことの大切さに気付き、謙虚に他者から学んでいこうとする態度を育てる。  
教材名 「言葉の向こうに」(出典：「私たちの道徳」 文部科学省)

## 「C 主として集団や社会との関わりに関すること」に係る実践事例

### 【事例4】 第1学年 内容項目：B 公正、公平、社会正義

- ・「考えを共有」する中で、ねらいとする道徳的価値への動機付けを図る導入
- ・一つの物事を、多面的に捉えさせる発問
- ・一つの立場(傍観者)を中心にして、多面的・多角的に考えさせる発問
- ・本時の主題(テーマ)からいじめについて考えさせる発問
- ・話し合いにおける座席の工夫
- ・教師の失敗体験に基づく説話

- 1 主題名 公正、公平でいるためにできること
- 2 ねらい いじめ問題に対する作者の考え方について話し合うことを通して、正義を愛し、いじめの解消に努め、差別や偏見のないよりよい社会の実現を目指そうとする態度を育てる。  
教材名 「いじめっ子の気持ち」(出典：「新しい道徳1」 東京書籍)

### 【事例5】 第3学年 内容項目：C 社会参画、公共の精神

- ・問題意識を高める導入
- ・主人公の心情を掘り下げる問い返し
- ・思考を広げるためのツールを活用した小グループの話合い
- ・自分の考えを書く活動
- ・多様な感じ方、考え方を対比して示す板書
- ・多様な視点から考えを広げ、深める話合い
- ・道徳的価値の自覚を深める話合い

- 1 主題名 よりよい社会の実現
- 2 ねらい 清掃登山を行う人々の考えを深める話合いを通して、社会連帯の大切さに気づき、よりよい社会の実現に貢献しようとする実践意欲を育てる。  
教材名 「次は清掃登山に挑戦だ」(出典：「彩の国の道徳(中学校)『自分をみつめて』」県教委)

### 【事例6】 第1学年 内容項目：C 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度

- ・ALTを交えて考えを広げたり、深めたりする話合い①
- ・映像の活用
- ・自分を見つめる書く活動
- ・ALTを交えて考えを広げたり、深めたりする話合い②
- ・伝統文化を継承する意義について考えを深める話合い

- 1 主題名 世界の中での日本文化のすばらしさ
- 2 ねらい 日本の伝統文化の良さについて、様々な立場の人の考えから多面的に捉える学習を通して、日本の伝統文化に改めて目を向け、それらを伝えていこうとする態度を育てる。  
教材名 「日本の心と技」(出典 中学生の道徳「明日への扉1年」学研)

### 「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」に係る実践事例

### 【事例7】 第3学年 内容項目：D 生命の尊さ

- ・体験の想起からねらいとする道徳的価値への意識付けを図る導入
- ・主人公に共感させる発問
- ・視覚に訴える板書
- ・考えを広げたり、深めたりする補助発問
- ・ゲストティーチャー(ビデオ映像)の活用
- ・教材提示の工夫
- ・主人公の気持ちの変化に気付かせる発問
- ・付箋を活用しながら道徳的価値についての考えを深める話合い
- ・自分を見つめる書く活動

- 1 主題名 命の重さ
- 2 ねらい 「他の生命をいただく」とはどのようなことかについて考えることを通して、生きとし生けるものの生命の尊さに気づき、生命は他の生命によって生かされていることに感謝する心情を育てる。  
教材名 「忘れられないご馳走」(出典：中学生の道徳「明日への扉3年」学研)

### 【事例8】 第3学年 内容項目：D 感動、畏敬の念

- ・共通体験を取り上げ、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る導入
- ・付箋を活用した少人数での話合い
- ・教材を生かす補助発問
- ・自分を見つめ、振り返る活動(書く活動)

- 1 主題名 神秘の世界へ
- 2 ねらい 未知の宇宙空間で作者が感じた「生命観」を話し合うことを通して、地球の美しさや神秘的な生命の尊さという人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めようとする心情を育てる。  
教材名 「ハッチを開けて、知らない世界へ」(「新しい道徳3」東京書籍)

### 3 活用に当たっての配慮事項

- ・ここで取り上げた事例の活用に当たっては、各学校、各学級の実態に応じて創意工夫し、各事例相互の内容を関連させ、多様な指導や取組を考えるなどして指導効果を高めることが大切である。また、指導に際しては、生徒による学習がより効果的に実施されるように、生徒の発達の段階等を踏まえ、指導方法を吟味した上で、事例を生かすことが重要である。
- ・道徳の教科化に伴い、検定教科書を導入、使用することとなった。各校においては、採択された教科書が主な教材となる。本事例では、複数の教科書発行者の教材について取り上げたが、教科書採択制度の趣旨等に十分配慮し、各事例の指導方法及び指導の効果を高める工夫等を活用する必要がある。
- ・道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実に資する具体的な事例として、平成24年3月刊行の埼玉県中学校教育課程指導実践事例集に掲載している事例を新学習指導要領下でも引き続き参考とする。

【参考】平成24年3月刊行の埼玉県中学校教育課程指導実践事例集において取り上げている内容

- 学校、家庭、地域社会が一体となった道徳教育の推進
  - ア 道徳教育の取組の家庭や地域社会への広報
  - イ 道徳教育に関する学校行事等への家庭や地域社会の参加
  - ウ 道徳教育を柱とした地域の活動
- 小・中学校が連携した道徳教育
  - 小・中学校の内容項目の関連を図った授業

### 埼玉県中学校教育課程指導実践事例（道徳）作成協力委員

（◎は会長、○は副会長を示す）

- |         |                   |
|---------|-------------------|
| ◎ 堀内 俊吾 | 久喜市立久喜中学校校長       |
| ○ 井上 貴昭 | 熊谷市立大原中学校教頭       |
| 小山 泰昇   | 川口市立南中学校教諭        |
| 富永 真琴   | 上尾市立南中学校教諭        |
| 斉藤 弘樹   | 狭山市立中央中学校教諭       |
| 神田 敦子   | 滑川町立滑川中学校教諭       |
| 齊藤 貴史   | 熊谷市立妻沼西中学校教諭      |
| 今井久美子   | 横瀬町立横瀬中学校教諭       |
| 大塚 悠希   | 八潮市立大原中学校教諭       |
| 山田 美穂   | 吉川市立南中学校教諭        |
| 岸 千里    | 上尾市教育委員会副主幹兼指導主事  |
| 真崎 孝博   | 所沢市教育委員会指導主事      |
| 後藤 輝明   | 西部教育事務所指導主事       |
| 原 卓範    | 県立総合教育センター指導主事兼所員 |

### 【事務局】

- |       |                    |
|-------|--------------------|
| 八田 聡史 | 市町村支援部義務教育指導課長     |
| 吉田 元  | 市町村支援部義務教育指導課教育指導幹 |
| 安元 信幸 | 市町村支援部義務教育指導課指導主事  |